

アジア最大規模航空見本市「Singapore Air Show」

2月11日(火)から16日(日)までの6日間、シンガポールのチャンギエキシビジョンセンターで「Singapore Airshow」が開催されました。

47の国・地域から1000社を超える企業が集結したこのアジア最大規模の見本市は、2年に1回開催され、航空宇宙及び防衛市場の国際化とネットワーク作りの場を提供し、民間及び軍事航空産業に大きく貢献しています。

会期前半は関係者による商取引がメインとなっていますが、後半2日間は一般の人々も入場することができます。

航空関係者はオフィシャルウェブサイトに事前に登録すれば、ウェブ上で出展者を検索することができ、そのままアポイントを申し込めるなど、大きな会場でも効率的にビジネスマッチングができるように工夫されていました。

会場には、ボーイングに代表される飛行機製造企業、航空会社はもとより、エンジン・

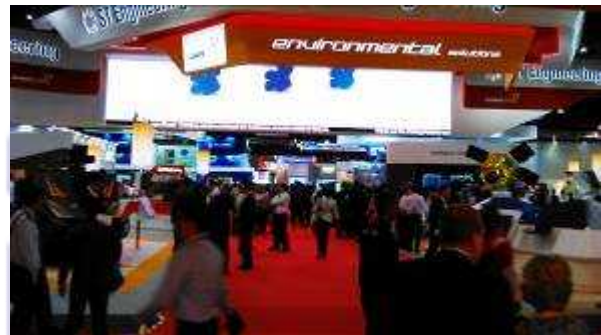
関連部品メーカー、航空システムの運営会社、機内のインテリア、サービス関連会社、空港の運営を行う会社まで、航空・宇宙に関わる全ての業種・企業が集まり、広大な展示場内には実物大のジェットエンジンから小さなパーツまで数多くの展示品が並んでいました。ジェット戦闘機や無人偵察機等の展示もあるため軍服姿の来場者も多く、他の展示会にはない雰囲気でした。

日本からの出展もあり、JETROのブースに10企業が、また、愛知県と東京都等がブースを構えていました。



戦闘機、ジャンボジェット機の展示

が出展していました。アマテラスは中小企業の集合体で、メッキ、塑成加工、熱処理など、メンバー企業それぞれが持つ技術・強みを生かして航空部品の一貫受注をする仕組みです。海外企業の関心も高く、ビジネスマッチングのスケジュールはびっしり埋まっているとの



来場者で賑わう会場

航空宇宙産業クラスター形成特区の認定を受けている愛知県及び名古屋市は初のエアショー出展で、自動車産業で培った技術をもとに航空宇宙産業に事業を展開しようとするものです。愛知県ブースの前には中部航空宇宙産業技術センター(C-ASTEC)もレクチャースペースを構え、技術等を映像で紹介していました。

東京都からは企業グループ「アマテラス」

ことでした。

このエアショーにはアジアのみならず世界各国から多くの関係者が集まり、ショーケースとして高い効果を上げています。商取引も活発に行われ、今会期中の成約額は320億米ドル、来場者は14万6千人と過去最高となりました。

シンガポールでは、航空宇宙産業に力を入れており、経済開発庁（EDB）の主導で税制優遇などの誘致策を展開、関連企業を集積してアジアのハブとなることを目指しています。今回のエアショーも政府主導で開催されたものであり、政府系展示会企業 ExperiaEvents社が主催したものです。成長著しいシンガポールの航空宇宙産業にますます注目が集まっています。



東京都・アマテラスのブース

(丸山調査役 兵庫県派遣)

